

May / June
2022 No.17

A Newsletter from SCGO-JSOG Project
on Women's Health and Cervical Cancer

カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

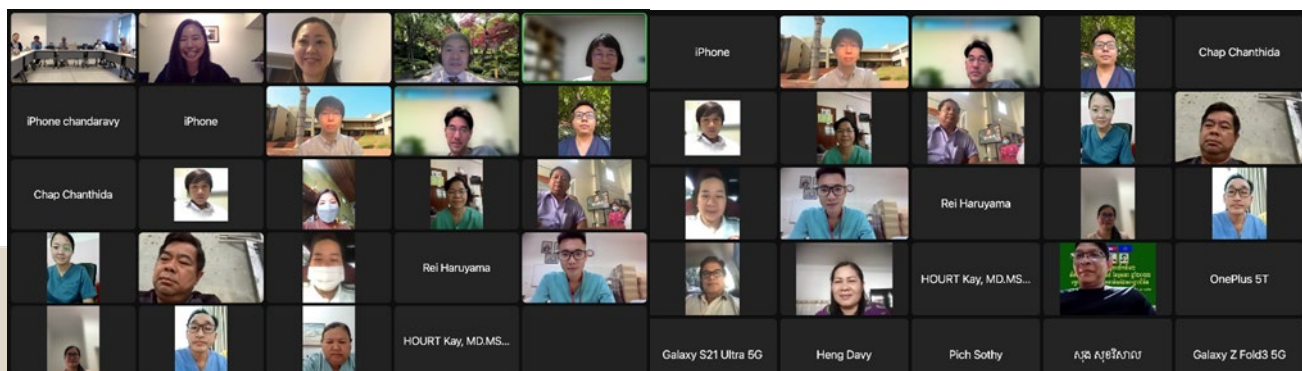
産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編>レクチャー企画 第1回セッションを開催しました

本事業計画における活動 2-5「カンボジア産科婦人科学会(SCGO)のトレーナー能力強化」を目的として、日本産科婦人科学会(JSOG)の産婦人科診療ガイドライン<婦人科外来編 2020>のクリニカルクエスト(CQ)に沿ったレクチャー企画が JSOG 幹事医師メンバーにより行われることになり、5月21日に第1回セッションが開催されました。

講師は東京大学の永松健医師で、診療ガイドラインの作成方法および、子宮腺筋症の診断と治療(CQ217)についてのセッションでした。事前に講義スライド動画と補助資料として手術動画を見ておいてもらい、当日はこれら資料に関する質疑応答を行う形式で実施しました。SCGO 側からは、産婦人科診療の継続教育に携わる国立・州立病院医師約40名の参加があり、2時間にわたる活発なディスカッションが行われました。カンボジアでも経済発展に伴い妊娠年齢が上がっていることや、自費診療であればホルモン療法も可能であることから、子宮腺筋症の適切な診断・治療への関心が高まっていると感じました。

本レクチャー企画で取り上げる CQ は、SCGO への事前アンケートで希望が多かったものの中から選択しています。今年度は3か月毎に合計4回のセッションが予定されています。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



第 21 回カンボジア産婦人科学会シンポジウム (女性の健康セミナー)が開催されました

6月25日、第21回SCGOシンポジウムが開催されました。今回は2年振りに現地開催(プノンペン市内ホテル会場)のみで行われましたが、全国から全学会員の6割強にあたる275名の産婦人科医の参加があり、盛況に終わりました。シンポジウム冒頭で大須賀穰渉外担当理事のビデオメッセージが放映され、その後カナル学会理事長が「SCGO-JSOG事業の進捗と今後の予定」について講演されました。

当日の様子は、現地テレビでも紹介されました(<https://www.youtube.com/watch?v=rqqpXjnz-H8>)。また、講演プログラムの前後に、SCGOの紹介動画が流れ、これまでカンボジアに渡航し現地指導して下さった多くのJSOGの先生方の様子も映し出されていました(<https://www.youtube.com/watch?v=gsH1gETQO7E>)。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山 怜)



会場で大須賀理事のビデオメッセージが放映されました



セミナーの様子は現地のテレビでも紹介されました

小学校教員への健康教育実施に向けた準備を継続しています

8月からの健康教育実施に向けて、女性小学校教員の子宮頸がん検診受診に与える影響が評価できるような健康教育実施計画をオンラインでカンボジア側と協議しました。カンボジア産婦人科学会は、カンボジア教育省と連携しながら準備を進めています。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 神田 未和)



写真:2022年2月プノンペン市内で撮影